

ごみを減らそう!!



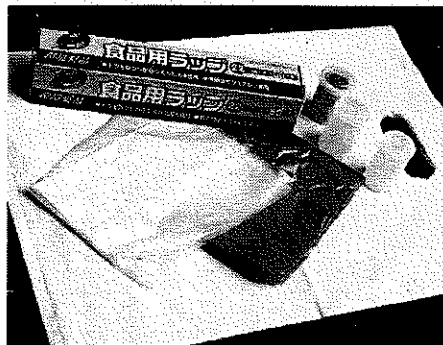
① PET
PETペットボトル
ポリエチレンテレ
フタレート
飲料、しょうゆ、油など



HDPE



LDPE



② HDPE高密度ポリエチレン
ごみ袋、フィルムケース、食品用ラップなど
④ 低密度ポリエチレン ごみ袋など



③ PVC塩化ビニル
豆腐、食品用ラップ、
萁の容器、傘、レイン
コート、ハム・ウィン
ナーの包装材など



⑥ PSポリスチレン
発砲スチロールトレ
ー、カップ類の容器
など



PP



⑤ PPポリプロピレン
シャンプーなどの容器、洗面器、食器など



⑦ OTHER その他
ファーストフードの容器類など

gomi情報最前線

容器包装材にふんだんに用いられているプラスチック。身近な存在でありながら、その材質や見分け方は意外に知られていない。

容器包装リサイクル法が施行されたのは、平成9年4月。それを機に、京都市でも牛乳紙パック、ペットボトルの分別収集が始まったが、平成12年度からは、猶予されていたペットボトル以外のプラスチックごみも再商品化（リサイクル）の対象となり、京都市でも何らかの対策がとられることになる。当然、市民もプラスチックごみの分別への協力などが欠かせない。プラスチックの見分け方なんか知らない。では済まされない。そこで、簡単にプラスチック分別法を紹介。

プラスチック工業会は、7種の識別コードで材質を表示するよう呼びかけていて、商品や包装材のラベルに表示されているものも少なくない。このコードシステムは、アメリカのプラスチック工業協会（SPI）で決められ、カナダ、オーストラリアでも採用されている。

現在、ペットボトル以外のプラスチックの再商品化の多くは油化されることが考えられている。

来年4月までには、プラスチックを見分けられるようになる。

輝いてきた 地域ごみ減量推進会議

地域ごみ減量推進会議ネットワーク発足

京都市ごみ減量推進会議の活動の核となる地域ごみ減量推進会議。各地域で立ち上げが相次ぎ、現在7団体（平成11年1月）がそれぞれに活動を展開している。各組織が個別の活動をするのではなく、団体同士が情報交換し、連携させながら、ごみ減量へのうねりを高めていってほしいところ。そこで、地域ごみ減量推進会議ネットワークのスタートが実現し、去る1月22日はじめての会議を開いた。それぞれの活動報告を中心に、問題点や今後の課題などをまとめた。

情報を交換し、
知恵を出し合い
お互いに学びつつ、
手を取りあって活動を



松本育生
地域活動支援実行委員会
委員長

現在、地域ごみ減量推進会議を結成し、活動されている7つの地域の方々及び支援する立場の方にご参加いただいた。本日の会議にて「地域ごみ減量推進会議ネットワーク」の発足としたいと考えています。そもそも京都市ごみ減量推進会議は各地域で自主的にごみを減らしていくという取り組みを中心に据えています。お互いに支援しあい、また行政のバックアップを受け、意見や情報交換したり、交流しながらさらに有機的な活動にしていくなめにも、地域ごみ減量推進会議の会員同士が連携することは、たいへん有意義なことであり、今日という日の訪れを待望していました。みなさんのご努力で7つの地域ごみ減量推進会議ができましたので、ぜひ立ち上げようという事になった次第です。このネットワーク会議の意義・目的等につきましては、母体である京都市ごみ減量推進会議から、お願いしたりするのではなく、みなさんで形成していった方がいいと思います。こんな事もやろうじゃないか、あれもしようとか、みなさんの要望や企画をどんどん盛り込み、このネットワークを活発

にしていっていただきたいと考えております。今、世界で、日本各地で様々なごみ減量に向けての動きがあります。海外の事例、日本の他地域の事例などを情報として吸収し、学びつつ進めていくのもやり方でしょう。

現在の活動を見ますと、非常に活発で円滑に運んでいるかと思えば、なかなか難しい部分もあるようです。それをお互いに公表しながら、上手に行っているところに学び、みなで活用しようじゃないか、難しいところは、それをどう乗り越えたらいいのか、みなで考え、京都市をはじめ、いろいろな団体と手を組むことで乗り越えていくことができるのではないのでしょうか。みんなの考えで知恵を出し合えば、きっといい形の組織になる、活動も積極的になると信じています。



1月22日（金）に開かれた地域ごみ減量推進会議ネットワーク

ネットワーク会議を毎月開いて
いろんな活動や人に学びつつ、
ごみ減らしを



伊藤さかえ
京都市ごみ減量推進会議理事・
地域活動支援実行委員

今日は、地域ごみ減量推進会議のネットワークがスタートするということで、先陣を切って活動してきた立場から、助言者として出席しました。97年1月、地域ごみ減量推進会議の第一号にあたる下鴨・松ヶ崎地域ごみ減量推進会議を発足させ、理事に就任。同年の4月には、下鴨小学校など、地域の3カ所を巡回するリサイクルフェアの開催、地域の薬局等の店頭でも再生紙販売キャンペーンを推進してきました。8月には京都市のモデル事業として使用済み天ぷら油の回収にも取り組みました。あれから2年間活動してきて、良いところも難しいところもわかってきました。みなさんいろいろな苦労されているのではないかと思います。これだけの地域ごみ減量推進会議が立ち上がり、感無量です。ごみに関しても、まだまだやらなければならないことがあります。お互いの良いところを学びあい、地域に根ざした活動を広げていきたいものです。

下鴨ごみ減量推進会議

新たな拠点を設け、廃食用油の回収量の増加を。マスコミでのPRにも期待したい

下鴨・葵・松ヶ崎

地域ごみ減量推進会議が発足したのは、

97（平成9）年1月。

その後、学区毎の特徴が異なるため、それぞれ別の動きをし

ようと発展的に3つの地域ごみ減量推進会議として立ち上げることになりました。以前からの主な活動であった、使用済みのてんぷら油の回収は、下鴨ごみ減量推進会議がまとめるかたちで継続しています。モデル事業として約2年回収に当たっているわけですが、今後量的な増加を考えると、新たな回収拠点の設置が大きな課題となります。京都市ごみ減量推進会議や行政に期待したいのは、PR活動です。とくに媒体を活用した普及啓発に力を注いでほしい。それに回収容器として各ご家庭から持ってくるペットボトルの処理も解決策が必要です。



西垣利平 会長

再生紙利用促進については、97年6月めぐくるくんの店の店頭で、再生紙を販売するキャンペーンを行いました。今でもいくつかの店舗では、再生紙を前面に打ち出しています。また、学校、印刷業者、文具店などに再生紙の利用や販売を呼びかけています。

発足：1998年（平成10）4月（下鴨・葵・松ヶ崎

地域ごみ減量推進会議の発展的解消に伴い）

会員数：30名

会長：西垣利平

主な活動：廃食用油拠点回収の実施（月1回・第2土曜午前10～11時・下鴨公設市場、下鴨小学校で実施）

葵ごみ減量推進会議

既存団体と協力しだれもが参加しやすい集合体に

葵地区では、古

紙回収をはじめ、

すでに多くの団体

がごみへの取り組みを

主婦連は使用

済みてんぷら油の

回収、葵小学校では牛乳紙パックの回収や新聞古

紙回収の実施、社会福祉協議会では区民まつりな

どの催しを通して啓発活動。その他、地域女性会、

体育振興会、PTA等が、ごみ減らしにおいて実

績を重ねておられます。その中で、葵学区ごみ減

量推進会議の役割は、各々の団体とどう協力しあ

えるのか、というところにあるのではないかと考

えています。今後、各種団体の代表の方と話し合

いをくり返し、だれもが参加しやすい活動体制を

形成するよう努力したい。

発足：1998年（平成10）4月（下鴨・葵・松

ヶ崎地域ごみ減量推進会議の発展的解消に伴い）

会長：園原史郎

主な活動：廃食用油拠点回収の実施（月1回・第

2土曜午後3時～4時・ポロ口ッ力厚生会下鴨店

前、リカーショップ桜崎前で実施）



園原史郎 代表

松ヶ崎学区ごみ減量推進会議

会員宅にもポリタンクを置いて廃食用油の回収に協力

毎月1回、使用

済みてんぷら油の回

収を実施していま

す。始めたのは1

997年から。拠

点は松ヶ崎小学校

と生協下鴨センタ

ーの2カ所。第2土曜の午前10時～11時の1時間

回収を行っています。当初から思えば、少しずつ市

民に浸透しているせいか、量的には増えてきていま

す。しかし、目標の回収量からすればまだまだ不足

しています。現在、時間外の回収に対応するため、

4会員の自宅にポリタンクを設置しているものの、

なかなか量的には増えません。市政をお知らせする

掲示板に回収のポスターを貼らせてもらったりして

より多くの方に協力してもらえよう働きかけてい

ます。どうすればもっと回収できるのか、いろいろ

策を練っています。今、体制を見直す時期なのかも

しれません。今後は安定した活動の出来る組織づく

りに励みたいと思います。

発足：1998年（平成10）4月（下鴨・葵・松ヶ

崎地域ごみ減量推進会議の発展的解消に伴い）

会員数：5～10名

会長：山田多郎

主な活動：廃食用油拠点回収の実施（月1回・第2

土曜午前10～11時・松ヶ崎小学校、京都生協下鴨セ

ンター店頭で実施）



山田多郎 会長

聖護院・川東・新洞学区ごみ減量推進会議

成果を追うのではなく、みんなで
支えあいながら、長く活動していきたい

地域の自治連合会会長や
各種団体の会長さんにごみ
減量の取り組みの大切さや
京都市ごみ減量推進会議の
存在を語り、発足を呼びか
けたところ皆さんの賛同を
得て、98年2月に設立總會
を開きました。古紙回収や、
買い物袋の持参を呼びかけ
るなどの活動を地道に行っ
ていました。98年6月からは、
使用済みてんぷら油の回収に
取り組み、実績を上げていま
す。



今西恒子 会長

買い物袋については、積極的に呼びかけを行うのと同時に、会員の方に実際に使ってもらおうと布袋を配布しました。一過性に終わらず、地味ではあっても長続きする活動を積み重ねていきたい。

今年度は、地域の中学校の環境学習に協力することが決まっています。子どもたちとの関わりは、私たちの活動の新たな芽であり、いいかたちで協力できればと案を練っているところです。今後の活動として情報伝達と、PRに努めたいですね。

発足：1998年（平成10）2月
会員数：253名

主な活動：古紙回収、買い物袋持参運動の展開、廃食用油
拠点回収の実施（月1回・第3水曜・聖護院八つ橋前、ジ
ヤスコ二条店前で実施）

山科西野地域ごみ減量推進会議「めぐる会」

6人で発足したのが、150人に拡大。
古紙回収を土台に実行力を培う。

立ち上げのきっかけにな
ったのは、古紙の問題でし
た。「古紙回収に来てくれ
なくなつて、たまって困っ
ている」「回収業者が来て
も逆有償で一体どうなつて
いるの？」など、不満の声
がありまして、それを拾い上
げるような形で、京都市ご
み減量推進委員の経験者で
ある村西さんをお会長に擁
立し、たった6人で発足しま
した。とりあえず古紙の集
団回収からはじめました。学
習会・見学会もテーマを決
めて行っています。生ごみの
堆肥化について学んだりし
ています。今年2月には大津
板紙を訪ね、古紙再生の現
場でいろいろ勉強したのは
記憶に新しいところです。



山内 寛 副会長

また、昨年10月西野小学校の4年生の児童を対象とした環境学習に協力するという機会を持つことができ、地域ごみ減量推進会議の新たな役割としての広がりを実感しました。今年1月に山階小学校でも環境学習に協力しました。買い物袋持参の啓発活動も行っていますし、98年12月からは使用済みてんぷら油の回収もはじめました。

今後は地域全体でごみ減量がさらに大きく広がるよう、リーダーシップを発揮していきたい。

発足：1998年3月（平成10）
会員数：約150名

会長：村西法子
主な活動：古紙分別拠点収集（26カ所）、小学校児童を対象とした環境学習会への協力（講師など）、買い物袋持参運動の展開、再生紙利用促進啓発、廃食用油拠点回収の実施（月1回・第4金曜日・村西宅付近で実施）

地域ごみ減量推進会議の活動風景



使用済みてんぷら油の回収（聖護院・川東・新洞学区ごみ減量推進会議）



西野小学校で環境学習に協力する村西会長（山科西野地域ごみ減量推進会議「めぐる会」）

葛野地域女性会ごみ減量推進会議

スーパーの掲示板にポスターを貼って告知
回収量も増えています

葛野学区には大きな公園が4つあります。公園といえど、どうしてもごみが問題になりますのでぜひ、前日から、公園愛護会などが清掃していました。葛野



藤田比沙子 会長

地域女性会ではその団体をお手伝いする方たちで、公園の美化に取り組んでいました。そこへ使用済みてんぷら油の回収をされているとの情報が入り、早速見学に行つて私たちもはじめることにしたわけです。現在2拠点で回収を実施。1拠点はスーパーの店頭で、店には、実施1週間前にポスターを貼ってもらつた協力してもらっています。先日京都市ごみ減量推進会議の補助金で、椅子を4脚購入しました。それまで当番の人はずっと立ちっぱなしでした。これで少し楽になりました。雨の日の回収のため、ビーチパラソルもほしいですね。廃食用油を持ってこられた方に粗品を上げたいのですが、なにかいい策はないものでしょうか。

この2月には買い物袋持参運動を広げよう、とりあえず役員だけでも持とうとペットボトルの再生素材でできた袋を50枚購入、現在それを持って買い物に行つています。買い物袋についても今後積極的に取り組みたいと考えています。また、公園で排出されるアルミ缶を有料で買い取ってもらえる体制ができないかと思案しています。有料になれば、ポイ捨てもなくなるのでは、子どもたちの環境学習にもなるのではないかと思うのですが。

発足：1998年（平成10）8月

会員数：280名（女性会230名、老人クラブ50名）

会長：藤田比沙子

主な活動：廃食用油拠点回収の実施（月1回・第4土曜午前10～11時・スーパー丸善店頭、西大丸公園で実施）、公園の清掃

常磐野地域女性会ごみ減量推進会議

天ぷら油回収の働き者は
病院でもらい受けたポリタンク

右京区地域女性連合会長から使用済みの天ぷら油の回収が、市民の協力で実施され、それがごみ収集車のディールエンジンにリサイクルされることを聞き、葛野、常



梅原禎子 会長

磐野、南太秦、嵯峨の4学区がモデル地区として回収をはじめたのは、98年の1月。自治連合会を始め各種団体長に協力をいただき、2拠点で集めています。回収の便宜を図るため、病院で使われていた10ℓ入りのポリタンクをもらい受け、老人クラブの国本会長さん、町委員さんのお宅に置き、町内の方が持つてこられた分を集めておいて、回収日当日拠点に車で回り、持っていきます。もちろん私の家にもポリタンクを置いてあります。今では老人クラブの会長さんまでお手伝いして下さいます。

去年の夏、補助金を申請し、雨が降った時の対策としてビーチパラソルを購入しました。「使用済み天ぷら油回収」と書かれた旗も、京都市ごみ減量推進会議から支給してもらい、回収時に立てています。町内の回覧を通して告知・普及に努めているので、多くの方に浸透してきています。廃食用油の回収に協力していただいた方には、京都市ごみ減量推進会議から支給してもらった粗品を差し上げています。学習会や見学会も開いていて、98年、環境局の方から講師を派遣していただいたり、山ノ内の浄水場の見学、下水処理場の見学、北清掃局のごみ処理の見学とか勉強を重ねています。買い物袋持参運動も普及するため、ペットボトルの再生素材で出来た布袋を購入し、配布しました。

発足：1998年（平成10）9月

会員数：180名

会長：梅原禎子

主な活動：廃食用油拠点回収の実施（毎月1回・第4土曜午前10～11時・常磐野公園、太秦乾公園で実施）、古紙回収、トリー・ペットボトル・牛乳紙パックの回収にも協力しています。



使用済みてんぷら油回収（常磐野地域女性会ごみ減量推進会議）



集団古紙回収風景（山科西野地域ごみ減量推進会議「めぐる会」）

常設型の使用済み天ぷら油回収器が 上京区社協事務所等に設置

着々と進む天ぷら油の回収。1999年1月より、社会福祉協議会事務所等に新タイプの回収器が設置された。今まで、主としてドラム缶式の回収器が使用され、回収時間も限定されていた。新型は、収容力や管理面での課題などが配慮された常設タイプ。46リットルまで収容し、常時回収することが可能に。この改善型により、天ぷら油の回収活動に弾みがつきそうな気配だ。

なお、この回収器の設置については、1月7日のKBS京都(TV)のニュースにて放映された。



使用済み天ぷら油を活用した バイオ・ディーゼル燃料化事業が 平成10年度「新エネ大賞」受賞

平成9年11月、京都市が本格的に導入した廃食用油によるバイオ・ディーゼル燃料化事業。地域ごみ減量推進会議等での回収が進む中、「新エネ大賞」を受賞した。

この賞は、通産省の外郭団体である新エネルギー財団によって創設され、21世紀に向けての新エネルギー機器及びその導入事例に対し、普及促進の功績があったと認められたものに与えられる。

京都市及び京都市ごみ減量推進会議はこの受賞をはずみに、いっそうバイオ・ディーゼル燃料化事業を進めていく予定だ。ごみ収集車にとどまらず、市長の乗る公用車を走らせる日も遠くない。



山階小学校で児童を対象に 環境学習会を開催

山科西野地域ごみ減量推進会議

1998年発足以来、古紙の集団回収をはじめ、定期的な環境学習会など積極的に活動が続ける本会議では、昨年

11月西野小学校で行った環境学習会をさらに広め、山階小学校でも実施した。集まった4年生の児童たち？名は、ペットボトルや牛乳パックなど、身近なリサイクルへの知識を深めた。地域市民が学校教育に参加、生活に密着した教育として児童たちに、環境について紹介できたことの成果は大きい。今後の発展に期待したい。



京都廃棄物減量等推進審議会の2部会が、 ごみ減量への具体策を盛り込み、 報告書を発表

京都市廃棄物減量等推進審議会では、昨年5月より「京都市一般廃棄物(ごみ)処理基本計画」及び「ごみ減量・リサイクル行動計画」の見直しとともに、具体的方策について2部会に別れ検討を行っていたが、このほどそれぞれの部会から報告書として提出された。

事業系ごみ減量部会は、発生抑制、リサイクルを活発化し、減量目標を20%に定めた。

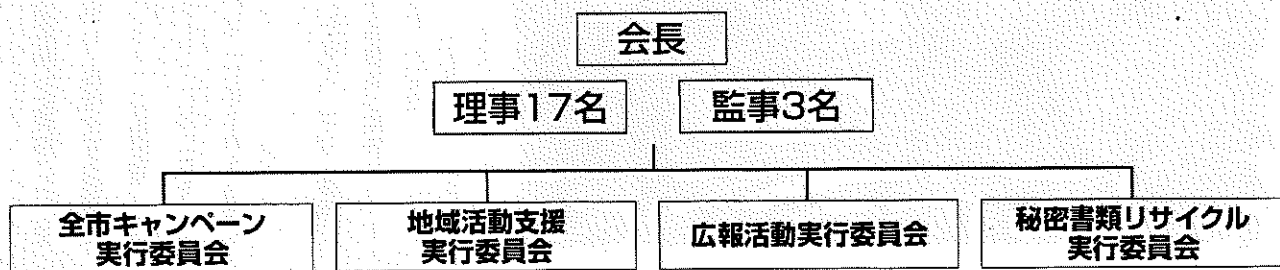
家庭系ごみ減量部会は、新たな提案として「環境意識の定着」を目指すとし、京都に根付いている暮らしの知恵を取り入れたライフスタイルへの変換などが盛り込まれた。

京都市ごみ減量推進会議 実行委員募集

京都市民に広く呼びかけ、ごみ問題への意識向上を図る「全市キャンペーン実行委員会」、地域ごみ減量推進会議の立ち上げを支援する「地域活動支援実行委員会」、会報誌を中心にした情報を収集し発信する「広報活動実行委員会」、企業等の秘密書類を再生する「秘密書類リサイクル実行委員会」。京都市ごみ減量推進会議は、4つの実行委員会で構成され、それぞれに実行委員数名が自主的に企画を進め、事業に取り組んでいる。市民、事業者、行政のパートナーシップを基本に、自らが考え、自らが行動し、ごみに関わる事業を展開。簡易包装キャンペーン、買い物袋持参運動、ごみってなんやウィークなどで実績を重ねてきた。平成8年11月発足以来会員が増え続け、現在192会員。とくに事業系の会員の増加が際だっている。事業内容についても、新たな視点からの発想が必要であり、実行委員会のメンバーも、新戦力となり、実行力のある人材が求められている。ごみ問題に関していうと、知識も必要だが、ひとつの事業を通して立場の異なる人々と交流しつつ体験を深めていくことが、なによりの糧となる。あれこれ考えずにまずは、実行委員になってみるのがいい。ひとつやってみようという方は、事務局へ。

☎2222-4091

京都市ごみ減量推進会議



○再生紙利用促進キャンペーン
実行委員会

○買い物袋持参運動実行委員会
その他、様々な事業を展開している

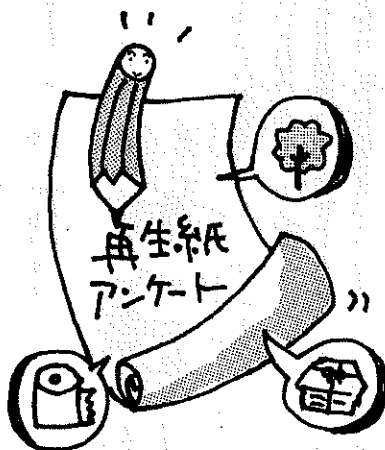
○地域ごみ減量推進会議ネットワーク（現在11団体）

地域ごみ減量推進会議の立ち上げや活動を支援する

○会報誌「ごみを減らそう！」
を年4回発行

○調査・情報収集など

○企業活動における機密書類再生システムを確立。回収から再生品の流れに沿って活動を展開

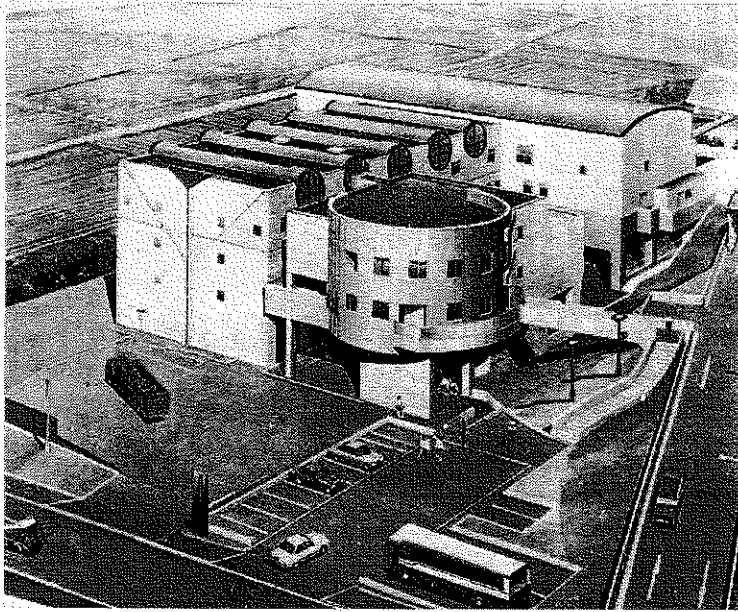


広報活動実行委員会が、事業者の会員を対象に再生紙アンケートを実施、現在集計中

会報誌の作成を中心に活動している、広報活動実行委員会が、再生紙に関するアンケートを実施（98年12月配布）。事業者会員に配布し、現在までに約50社からの回答を得ている。質問は6項目にわたり、再生紙の使用に関することを尋ねた。データとしては不正確だが、かすかに再生紙の使用拡大を阻む壁が、浮かび上がってきている。価格・品質・ルートの理由で再生紙を使っていない事業者もまだまだ多く、再生紙の流通については課題をひとつひとつきめ細かく、解決していく必要があると思われる。なお、このアンケートの集計結果は6月頃まとめられる予定である。

行政からのお知らせ

京都市南部資源リサイクルセンター4月1日開設。 啓発施設「めぐる君の学ぶハウス」もスタート。



環境先進都市を目指す京都市は、分別収集した資源ごみ（空き缶・空きびん・ペットボトル）を選別し、再生化する機能を備えた「京都市南部資源リサイクルセンター」（伏見区横大路）を整備していたが、完成に伴い、去る3月7日竣工式を行った。この施設は、知的障害者の就労の場「京都市横大路福祉工場」として運営される。

また、市民がごみリサイクルについて考え、学び、体験できる啓発プラザも併設。これに先立ち愛称募集が実施され、1504点の応募作品の中から選ばれたネーミングにより「めぐる君の学ぶハウス」と名付けられた。

新連載：ごみとエコロジー

エコロジー・テスト

京都市ごみ減量推進会議・広報活動実行委員長
寺島 晃（京都新聞社）

「あなたはどの程度、環境にやさしい生活をしていますか？」と問われて、戸惑ってしまう私などは、大いに励みになった。それがエコロジー・テストだ。考案したのは、京都市ごみ減量推進会議の会長でもある高月紘京都大学環境保全センター教授。テストでは、私たちの日頃のライフスタイルが環境保護に結びついているかどうか、100点満点の点数で表される。

たとえば「新聞・雑誌をリサイクルに出している」（エコポイント7・4）「マイカーを避けて公共交通を利用している」（同9・6）「除草剤や殺虫剤を使わないように気を付けている」（同4・5）など25の生活行動パターンごとに環境への重みによるエコポイントが示され、「いつも取り組んでいる」から「まったく取り組んでいない」まで5段階の自己判定をエコポイントと掛け合わせる。その上でトータルすれば、100点満点の点数になるという仕組みだ。実際に試してみると、なるほど「ごみ問題にはまあまあ熱心だが、水汚染や有害化学物質には無頓着」等と自分の欠点が見えてくる。高月教授の近著「自分の暮らしがわかるエコロジーテスト」（講談社）には、実際のテスト法はもとより、その狙いや根拠、ライフスタイルのどこが問題か、といったことが実に分かりやすく書かれている。「循環」「共生」「持続」のキーワードが生きる社会への一歩として、このテストをグループや会社の同僚などと試してみたいが。



環境家計簿モニター体験談

無駄のない生活習慣のきっかけに

～京都市地域女性連合会の方々の声を集めて～

毎日どれだけ環境に負荷をかけているのか。小さな心掛けてくまで環境に負荷を与えない暮らしができるのか。暮らしの中での「気づき」や、努力が目に見える数字となって評価できる環境家計簿。京都市は昨年から今年にかけて、モニター形式で環境家計簿を試みた。その中心となって協力した京都市地域女性連合会のメンバーに、感想などを伺った。

はじめに

環境家計簿のモニターは、1998年10月～12月の3カ月にわたって実施された。京都市環境局は、京都市地域女性連合会など数団体にモニター協力を依頼。電気、ガス、水道、灯油、ガソリン、ごみ、缶びんなどの使用量を記録していった。事前アンケート実施後の1カ月間は、今まで通りの生活。エコライフチェックシートを渡した後の2カ月間は、環境を意識した生活を行い、最終アンケートを提出した。

一年前と比較してみたら、

電気・ガス・水道ともに、ダウン。

秋から冬にかけて例年ですと、電気代、ガス代は上がるんですが、今年はやはり少なくて済みました。モニターをはじめてから、主人も影響を受け、自ら率先して使わない電気を消してまわっています。環境家計簿は、つけるのはしんどかったけれど、無駄を出さない生活習慣のきっかけになったと思います。いい勉強になりました。今、エコ商品が目がいくようになって、再生品などを購入したりしています。次の段階としてグリーンコンシューマーの勉強もしたいですね。

(西京地域女性会・三好悦子さん)

家族で環境について話し合った。

娘たちの意識も変わった。

「おかあさん、電源切らばあかん」と言って、外出前娘が電源を厳しくチェックしてくれます。もともと車は必要最小限しか乗らないし、トイレなどもリサイクルに

出しています。それが環境家計簿を機会に、徹底するようになりました。ガスに関しては、今まで強火も平気で使っていました。今は中火や弱火で調理をしています。家族全員の協力が欠かせなかったのが、環境について話し合う機会ができた、揃って意識を持つことができたのは、うれしい収穫でした。

(山科地域女性会・安達純子さん)

レジ袋などを断って

買い物袋を持参するようになった。

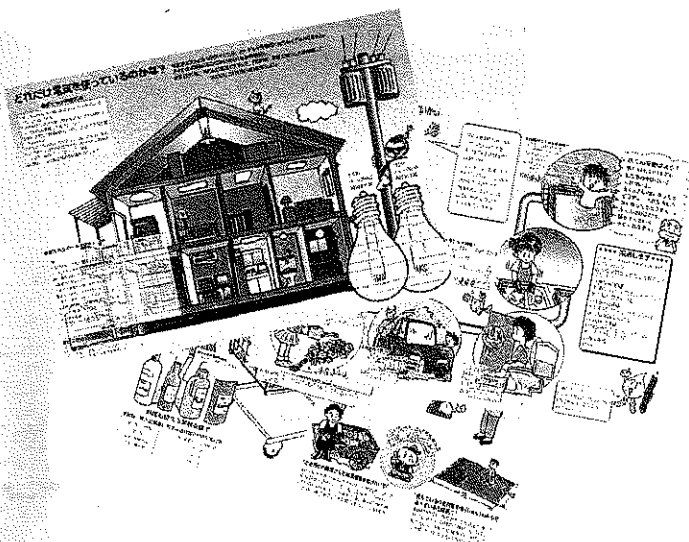
無駄な包装が気になり、買い物時には必ず買い物袋を持参するようになりました。よく使っているのは、ペットボトルの再生素材でつくった袋で収納力もあります。それまで「袋は要りませう」の一言が、言えなかったんです。今はスーパー、商店なども断っています。そして家族たちにも無駄な包装について話したりして意識の向上が図れました。ごみに関しても資源になる物のリサイクルを徹底するようになりました。

(上京地域女性会・堀口操さん)

待機電流の無駄を知って

コンセントから抜く習慣が…。

小さい頃から、ずっと自転車まで走っています。京の町を移動するのは自転車が一番よい。今回、待機電流の無駄を知り、コタツ、レンジ、エアコンなど、使わない家電製品のコードを抜いたり、多少暗くなっても明かりを少なくしたりするようになりました。それに買い物袋を持参するようになったのは大きな変化です。ス



バーのポリレジ袋って本当に無駄ですからね。

(上京地域女性会・森井充子(のぶ)さん)

近所や友人にだれにでもできる環境にいい暮らしのヒントをおしやり。

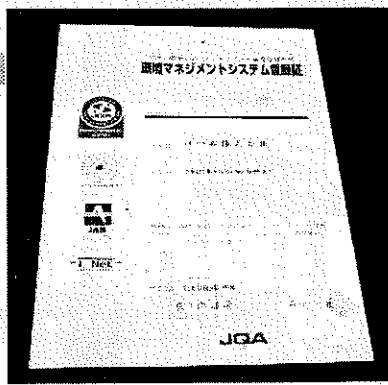
シャンプーや歯磨きの時、流しっぱなしにしないようにしました。今まで何気なくしていたことが、環境に負担を与えていると知り、生活の改善につながりました。環境家計簿はいい経験になりました。近所の方や友だちにもおぼたてたいがけで環境にいい暮らしができることを話しています。学区内の会員同志でも環境家計簿について話しましたが、面倒だったけれどつけて良かったという意見がほとんどでした。

(上京地域女性会・山崎和子さん)

京都市地域女性連合会をはじめ、多くの方々の協力で実施した環境家計簿。環境局では、今回の結果を基礎データに全市民的な広報を展開し、環境に負荷を与えないライフスタイルの普及を図る予定にしている。



取材にご協力いただいた京都市地域女性連合会の方々。
左下より、三好悦子さん、堀川文子会長、山崎和子さん
左上より、堀口操さん、安達純子さん、森井充子さん



Series

会員探訪

現在192に達している京都市ごみ減量推進会議の会員。それぞれにごみ減量への取り組みがあるにちがいありません。知恵と工夫にあふれた活動に学ぶことは、ごみ減量への取り組みをさらに活発化させる上で、大いにプラス。ごみ減量に前向きな会員を訪ねていきました。

ROHM ローム株式会社

ローム株式会社

Q 昨年5月、ISO14001の認証を取得されたそうですか？

A 我が社は、すでに'90年から環境保全専任部署を設置し、環境保全対策委員会を組織しながら、活動を続けてきました。

91年には、廃棄物分別回収の完全実施を実現、再生資源や包装資材のリサイクルも進めています。

ISO14001認証取得のため、推進委員会を設置したのが1997年1月のこと。3月には公式環境審査員17名、内部環境監査員13名を養成し、5月には全社あげて認証取得に向かおうとキックオフ宣言を掲げました。その後、環境基本方針を改定、具体的に行動し、きちんとした成果に結びつけるべく、環境目的・目標を制定しました。それを徹底するため、方針を明記したカードを作成し、社員一人ひとりが、胸ポケットに入れ持ち歩きました。そんな活動を積み重ねて、昨年5月認証を取得、その後昨年末迄に、国内関係会社8社が取得しました。

Q 貴社の産業廃棄物対策についてご紹介いただけますか？

A 我が社の場合、半導体等の製造過程で大量にフッ酸が必要となります。使用後の廃液を無害化処理することにより発生する多量の汚泥はセメントの原料として再資源化しています。その他、廃プラスチックは、燃料として、廃金属は、再生金属として再資源化しています。再生率は、'98年には95%に達しました。

Q 包装資材についてはどうなんでしょうか？

A 包装資材についても、リユース・リサイクルが基本です。テーパーリング包装形態に用いるリールはE

IAJの標準によるものを採用、5回は再使用できると読んでいます。そのまま得意先に納品し、得意先からリールメーカーに空リール容器を送り、ロームの工場へとふたたび運ばれるシステムで流れています。我が社では、96年発泡スチロールを全面廃止しました。発泡スチロールは、最良のクッション剤には違いないのですが、減容化ができないこと、生分解性がないことなどもあり、環境負荷を考えると、ポリエチレン製のエアークラップと段ボールに変更しました。

Q オフィス内でのごみ減量の取り組みについては？

A '98年4月、社員個人のごみ箱は廃止しました。各フロアにゴミステーションを設け、そこで分別回収しています。缶・びんはもちろん、電池・金属・廃プラをそれぞれ分類しています。紙ごみについては、裏紙を利用するリユース用紙入れと、リサイクルするものとにわけています。紙のリサイクル率は、目標値である90%を上回り、'98年には95%までに達しています。

Q 社内で事務機のリサイクルをされていると聞きましたが？

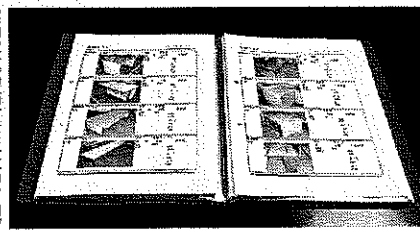
A 新しい機や事務機器に買い換えて、使わなくなったものを必要とする部署に引き取ってもらう、社内のリサイクルシステムです。これは購買部業務課の一社員が発案し、'97年から実施しています。不用になった機器を一旦、倉庫にストック、それを写真に撮り、簡



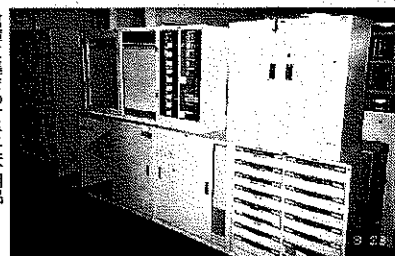
ローム株式会社

本社所在地
〒615-8585
京都市右京区西院溝崎町21
資本金860億6,400万円
事業内容
モノリシックIC、パワーモジュール、トランジスタ、ダイオード、センサ、半導体レーザ、抵抗器、コンデンサ、液晶、サーマルヘッド等の生産

実物写真の貼付されたカタログ

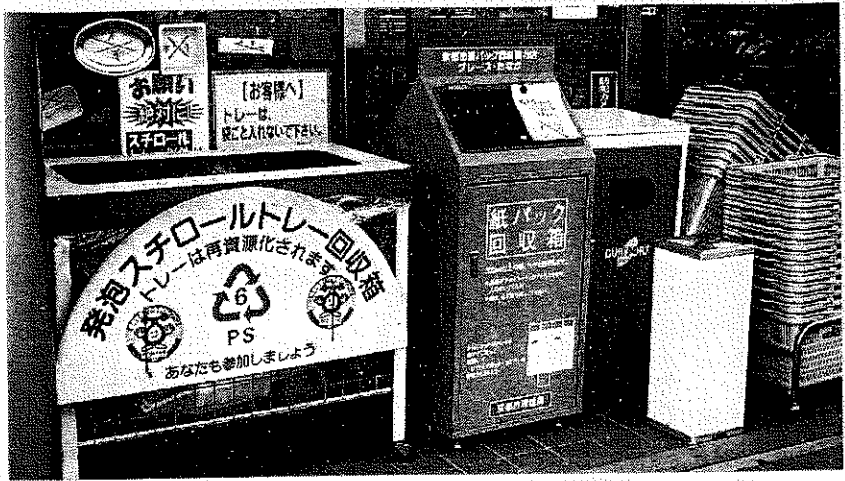


倉庫に集めてきた不用品



単なカタログを作り商品情報として、各部署に回します。それを見て最適な機器を探し、サイズや機能など、現物を確認して引き取るようになります。中には、あらかじめ予約して出物を持つケースもあるそうです。ぜひ、ご購入の経費節約に、貢献しているではないでしょうか？

店頭に並ぶ回収ボックス

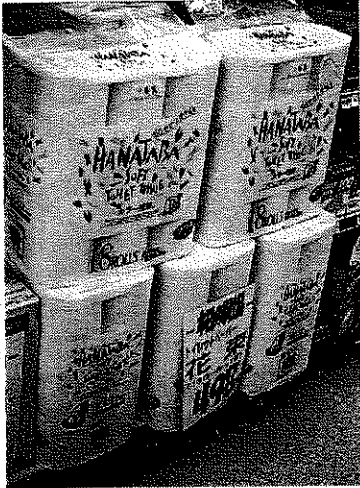


グレースたなか (京都市田中公設小売市場協同組合)

Q 田中公設市場では、包装材の回収ボックスを設け、ごみ減量に貢献していただけるようですね。

A 店頭で販売になったと思いますが、牛乳紙パックとトレイの回収ボックスを入口横に並べて実施しています。牛乳紙パックは、行政の指導で平成9年10月からスタートしました。現在、1週間、45ℓのごみ袋10袋分くらい集まります。

トレイは、メーカーの呼びかけで8年から実施。現在、トレーメーカー2社の協力を得て回収の管理業務にあたっています。協力率は、年々高まり、量的には回収ボックスの袋を1日約5回入れ替えています。メーカーの協力により、連日回収車が回ってきます。ストックの場所にも困ることはありません。これらの業務には、私以外にも名があたり、円滑に進めています。ただ、異物混入がかなりあり、お客のマナーの向上が課題です。今後、増え続けているペットボトル容器の回収なども進めていく必要があるでしょう。回収に関する情報を得て、取り組んでいきたいと構想を練っているところです。なお、生ごみ、油、段ボール、魚アラについては専門の回収業者に依頼し、リサイクルを進めています。



Q 京都に公設市場が誕生して昨年で80周年を迎えられ、環境を考慮したチラシ作成をされたと聞きました。

A 10の公設市場が集まって構成している京都市公設市場協同組合連合会で話し合い、80周年を記念してチラシを作成しました。この時、環境のことを考



非塩ビのポリエチレンラップも特売

え、ごみ焼却時や再生過程で有害物質排出の危険性が低い大豆油インクを使用しようというところ。98年9月の折り込みチラシ(日3・2ツ折)を15万枚印刷しました。これに引き続き、昨年12月に大豆油インクを使用。この3月もこのインクでチラシを制作する予定です。コスト面が高くなるのかと予想していたのですが、枚数が多かったため、今までの価格との差はありませんでした。今後継続して使用していくつもりです。

Q モニター制度を導入し、消費者の参加による店頭へりを試みられているとのことですが...

A 昨年、創業80周年を機に消費者モニターを募集。9月から12月まで計4回会議を開いて14名のモニターさんの意見を伺い、店づくりに反映させるようにしました。品揃えへの要望、品質への疑問、包装への疑問など様々な声が上がってきています。地域のお客様の健康で心地よい暮らしに貢献するのが、私どもグレースたなかの役目です。可能な限り声を吸い上げ、よりよいお店にしたいと改善していくつもりです。とくに野菜のはかり売り、詰め替え商品の推進は早急に取り組む必要

があるでしょうね。

Q ごみ減量に限らず、これからの環境全般への取り組みをどう考えておられるのでしょうか。

A 21世紀に向かって、公設市場もたまたた物を提供するのではなく、環境を配慮しながら健康で安全な生活のお役に立てる商業施設としての自覚を持たなくてはなりません。私たちの課題は山積しています。当店は、平成8年セルフ化を実現、おかげさまで当店は、環境への配慮のある店としてお客様に好印象を持っていたにいたるようです。再生品の販売も広げていきたい、バックヤードを整備し、ごみの分別化をさらに進めたい...。いろいろやりたいことがありますが、最重要テーマはISO14001の取得です。市内で開催される環境セミナーには、できるだけ参加し、その後、レジユメにまとめて仲間と話し合っています。学習を積み重ね、なんとか取得したいですね。



質問にお答えいただいた小川店長

グレースたなか 京都市田中 公設小売市場協同組合

所在地

〒606-8226

京都市左京区田中飛鳥井町40

組合員 6名

理事長 中西 勇

事業内容 生鮮・一般食品

および日用品小売市場

ごみ減量推進店

「めぐるくん」の店」実態調査

めぐるくん推進友の会報告書より

京都市が、ごみ減量リサイクル推進店として認定し、統一マークなどを目印とした看板を店頭に掲げている「めぐるくん」の店」の調査が行われた。1995年スタート以来、認定店舗が増え、認定件数268（認定店数84）に達しているが、その存在や活動への市民の理解はいまひとつ。認証後の取り組みは掴みきれていない。そこで、めぐるくん推進友の会が乗り出した。101店舗におよぶ調査は、'98年7～8月の2カ月の間に、のべ150名が各店に直接ヒアリングする形で行った。

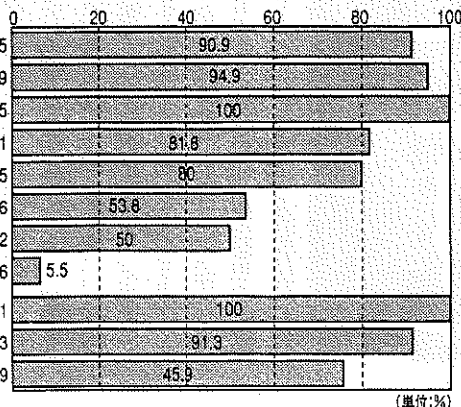


実施率が高い申請項目

めぐるくんの店は包装の簡素化、計り売りの実施など、ごみの発生抑制に関する取り組み、資源の店頭回収など、リサイクルに関する取り組みを実施している。認定の条件で、各店が申請することになっている。問1は、その申請の10項目が守られているかどうかについて、図表の通り、守られているとの回答が高く、実施率は良好と見られる。

問1.質問8項目のまとめ

資源の店頭回収リサイクル
買い物の削減



店のアンケートにならないうちの店も

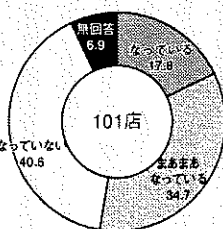
問2は、「めぐるくんの店」の認定への評価。アピールになっていないとの回答が4割にも達している。これは反省材料だ。

問3は、経費のこと。約6割が経費を負担。トレーの資源回収、梱包材のリサイクルを行っているスーパーで毎月20万もの費用負担が欠かせないとの声があった。しかし一方、内訳を見ると小売店の5割が、包装の簡素化、買い物の削減の呼びかけなどお金のかけない取り組みをしていた。

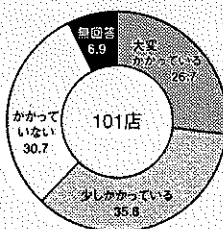
問4では、消費者の協力度について質問。多くは協力

的だが、「汚れたトレーや牛乳パックが持ち込まれる」など、マナー無視を嘆く声や、また「買い物の袋持参」の普及も低く消費者の協力、理解を求める回答もあった。問5では、新たな取り組みの予定を尋ねると、店舗の業態によって大きく違い資本力を反映させる形になった。問6は、杉板で作られた、めぐるくん推進店の看板の掲示について、約4割の店に掲示がなかったのは、残念。

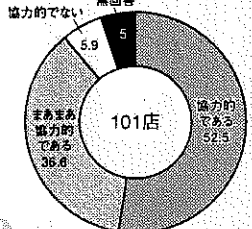
問2.「めぐるくんの店」となったことが店のアピールになっていますか？



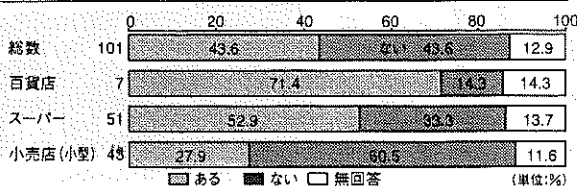
問3.ゴミ減量に経費がかかっていますか？



問4.消費者は取り組みに協力的ですか？



問5.今後新たな取り組みをする予定がありますか？



あなたのご意見をお寄せください

このページは、ごみに関する自由な発言コーナーです。どなたでもどんなご意見でも歓迎します。京都市ごみ減量推進会議までお手紙をどうぞ。

〒604-8571 京都市中京区寺町御池
京都市環境局事業部
リサイクル推進課内

☎ 075-222-4091
FAX 075-213-0453

京都市ごみ減量推進会議 会報「ごみを減らそう!!」NO.9
1999年(平成11年)3月発行
編集発行 京都市ごみ減量推進会議

●おわび 前号「ごみを減らそう!!」の4頁で京都視察者の会とあったのは、京都消費生活有資格者の会の誤りでした。

調査を実施され、報告書をまとめられためぐるくん推進友の会の会員の方々、ご苦労さまで、流した汗が、無駄ではなかったと、言える日がきつとやってくる。

また、小売業態別の取り組み対応が必要であり、商業の基盤の弱い小売店舗に対し、商店街ぐるみも含め支援するシステムの確立が欠かせないとの指摘も忘れてはいけません。

今後「めぐるくんの店」には、独自のごみ減量活動が期待される。今回の調査では、まず、実態を把握するための基礎データができたこと、店の要望が把握されるがらも、問題点、改善点が浮かび上がってきたことを評価したい。そして、調査にあたった「めぐるくん推進友の会」においても、調査ノウハウが蓄積できたことなどの意義があったであろう。

問7は、「めぐるくんの店」の制度そのものについて。消費者の認知が低く、「店の集客につながっていない」等、厳しい意見は多い。古紙や食物残渣の回収システムの確立への要望も提示された実態を掴む基礎データができた。